

Human documentary
film festival abeno

ヒューマン ドキュメンタリー映画祭 《阿倍野》2017

6月24日(土)・25日(日)

【会場】阿倍野区民センター 大ホール

TEL 06-4398-9877 地下鉄谷町線「阿倍野」6番出口すぐ

「ありがとう…」

入 場 料

1日券 2500円 (前売 2000円)
(当日何度でも再入場ができます)

2日券 3500円 (前売 3000円)
(2日間何度でも再入場ができます)

小学生以下無料。
学生、障がいのある方、60歳以上の方は
前売料金で入場できます。

チケット予約／問合せ

ヒューマンDFプロジェクト

大阪事務局／〒540-0037 大阪市中央区内平野町2-1-2 アイエスビル 4D
TEL : 080-6180-1542 FAX : 06-6945-1177

東京事務局／〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3階 (いせフィルム内)
TEL : 03-3406-9455 FAX : 03-3406-9460

http://hdff.jp/ E-mail : info@hdff.jp  hdff_abeno  hdff.jp

● 当日、このチラシを受付へお持ちください。ご同伴の方も前売料金でご入場いただけます。



ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》2017



「うたごころ《2012年版》」(112分)
榛葉 健 監督

東日本大震災で、親族5人と自宅を津波で失った女子高校生と家族、友達らが、歌を通して、人生を取り戻していく姿を描いたシリーズドキュメントの秀作。公開中の2作品とも《阿倍野》で初上映し、全国海外へと拡散。今年中国での上映も成功させ、凱旋上映となる。



「夜明け前の子どもたち」(120分)
柳澤 寿男 監督

「この子らを世の光に」を提唱した故糸賀一雄氏のもとに製作された、日本の福祉ドキュメンタリーの原点、とも言われる映画。舞台は重症心身障害児施設「びわこ学園」、医療と療育が一体化した取り組みを記録、日々の生活の中に発達の芽があることを描き切った、今こそ観られるべき作品である。



「奈緒ちゃん」(98分)
伊勢 真一 監督

てんかんと知的障がいをもつ少女・奈緒ちゃんの、8歳から成人式までの12年間を追ったヒューマンドキュメンタリー。監督の姪っ子にあたる奈緒ちゃんと、その家族の日常を、ただ静かに見つめ続け、映画は“しあわせ”について問いかけます。



「シバ 縄文犬のゆめ」(99分) 字幕あり
伊勢 真一 監督

「柴犬」の先祖は日本犬の中で最も古くから我が国に生息したと言われる。天然記念物柴犬保存会のリーダー照井光夫さんとその仲間たちが、縄文犬と呼ばれることもある「柴犬」と共に生きる姿を追った人と犬との愛情物語。まるでファンタジーのようなドキュメンタリー。



「花はんめ」(100分)
金 聖雄 監督

戦争という歴史に翻弄されながら、日本で生きてきた在日1世たち。80歳を過ぎて手に入れたなんでもない日常を、かけがえのない仲間とともに生きるハンメ（おばあちゃん）たちに4年間寄り添ったヒューマンドキュメンタリー。置き去りにした「青春」を取り戻す姿を描いた。



「やさしく なあに
～奈緒ちゃんと家族の35年～」(仮題) 未完成版
伊勢 真一 監督

「長くは生きられない…」と言われた、障がいのある姪っ子「奈緒ちゃん」とその家族の日々を、伊勢監督が見つめ続けた35年の記録。「奈緒ちゃんが生まれたから、生きたから、たくさんいのちが生まれた。」奈緒ちゃんは44才、元気です！『奈緒ちゃん』『びぐれっと』『ありがとう』に続く、家族の物語。

【上映プログラム】それぞれ作品上映後に監督による挨拶があります

6/24(土)	6/25(日)
10:00～ 開 会 式 コンテスト最優秀作品上映 「羽包む」(2005)「学校を辞めます」(2008) 「軍属だったおじいちゃん」(2016)	10:00～ 字幕あり 「シバ 縄文犬のゆめ」(99分) 伊勢 真一 監督
12:00～ 「うたごころ《2012年版》」(112分) 榛葉 健 監督	12:30～ 「花はんめ」(100分) 金 聖雄 監督
15:00～ 「夜明け前の子どもたち」(120分) 柳澤 寿男 監督	15:00～ 「やさしく なあに ～奈緒ちゃんと家族の35年～」(仮題) 未完成版 伊勢 真一 監督
17:00～ ドキュメント・トーク 玉村 公二彦(奈良教育大学教授) 西村 信子(「奈緒ちゃん」のお母さん) 伊勢 真一 監督	17:00～ ドキュメント・トーク 金 聖雄 監督 榛葉 健 監督 伊勢 真一 監督 他
18:30～ 「奈緒ちゃん」(98分) 伊勢 真一 監督	18:00～ 閉 会 式

※上映スケジュール及び上映作品は変更になる場合がありますのでご了承ください。

「ありがとう」

限りある「いのち」を生きる…
だからこそ、その「いのち」を精一杯生きよう…と。

「ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》」を始めて15年の歳月が流れました。
もしも、映画祭も生きものであるとしたら、
私たちは「ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》」という「いのち」を精一杯生きたと思う。
そして限りある「いのち」を、今年終えることになります。

みんなに支えられ続けて来た私たちの「映画祭」は今年で幕を降ろします。
お世話になりました。
本当にありがとうございました。

出来れば理由は聞かないで欲しい。
大切なことには、理由がないのだ。
映画が好きになったり、人を好きになったりすることに、いちいち理由が無いように。
「ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》」は、今年で終了します。

そして、その最後の開催日はいつもの夏の終わりではなく、6月24日(土)と25日(日)の二日間、いつもの阿倍野区民センターでやることにしました。

支えてくださったみなさんに「ありがとう」の気持ちで15年目の「ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》」を開催したいと思います。

笑顔で集まりましょう。
そしておいおいに別れを惜しみましょう。
祈り会。

ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》
総合プロデューサー 伊勢 真一

● 当映画祭へ、ハガキまたはメールであなたのメッセージをお寄せください。
E-mail : info@hdff.jp